

思いやりは女性の昇進に必要か

— 共同性が低い男女の昇進可能性評価 —

○ 清末有紀¹・森永康子¹・福留広大²

(¹ 広島大学大学院人間社会科学研究科・² 聖カタリナ大学人間健康福祉学部)

目的

欧米では、管理職を目指す女性に対するバックラッシュ効果の存在が指摘されており、作動的な女性は作動的な男性と比較して、(1) 支配性が高いと認知されることで好意度が低くなり、(2) 好意度が低いことで雇用可能性も低く評価されることが示されている (e.g., Rudman et al., 2012)。しかし、日本で行った研究では先行研究と同様の結果は得られず、作動的な人物に対する好意度や雇用可能性は刺激人物の性別によって変わらなかった (清末他, 2022)。日本では、共同的であることが男女関わらず重要であることが示されており (倉矢, 2016)、作動性ではなく、共同性を示さない女性に対してバックラッシュ効果が見られる可能性が考えられる。また、倉矢 (2016) は日本において女性に望ましいとされる特性として「従順と美」を指摘しており、支配性の認知ではなく、従順と美を低く認知されることがバックラッシュにつながる可能性が考えられる。以上より、本研究では共同性の低い男女刺激人物に対する評価を求め、違いが見られるか、そして、支配性または従順と美が刺激人物の性別と好意度の間を媒介し、好意度が刺激人物の性別と昇進可能性の間を媒介するかを検証する。また、刺激人物の性別ごとに、能力及び好意度が昇進可能性とどのように関連するかを検証する。

方法

参加者 クラウドソーシングで募集した日本の 22 歳以上の正規雇用・正規職員で働く 168 名 (女性 53 名)、平均年齢 40.01 歳、 $SD = 8.76$ 。

実験計画 刺激人物の性別 (男性, 女性) × 参加者の性別 (男性, 女性) の 2 要因参加者間計画、従属変数は刺激人物に対する評価であった。

手続きと質問項目 参加者に X 社で新設される部署の部長候補に関する文章 (例: 同僚に対して思いやりに向けた行動をとる) を提示し、刺激人物の能力 ($\alpha = .833$), 好意度 ($\alpha = .721$), 昇進可能性 ($\alpha = .815$) に対する評価を各 3 項目 6 件法, 支配性 ($\alpha = .764$), 従順と美 ($\alpha = .692$) を各 4 項目 6 件法で尋ねた。

結果

評価ごとに刺激人物の性別 × 参加者の性別の 2 要因分散分析を行ったが、有意な結果は見られなかった ($ps > .05$)。媒介効果について、有意な間接効果は見られず、支配性または従順と美は刺激人物の性別と好意度の間を媒介せず (支配性; $B = .044$, $SE = .052$, $Z = .851$, $p = .395$, 従順と美; $B = -.022$, $SE = .052$, $Z = -.426$, $p = .670$), 好意度は刺激人物の性別と昇進可能性の間を媒介しなかった ($B = .023$, $SE = .074$, $Z = .312$, $p = .755$)。次に、重回帰分析を行った (Table 2)。その結果、男性参加者かつ男性刺激人物では能力及好意度が同程度昇進可能性と関連した一方で、女性刺激人物では能力が昇進可能性に強く関連することが示唆された。女性参加者では刺激人物の性別に関係なく同様の傾向で能力及好意度が昇進可能性に関連していた。

Table 1 評価ごとの平均値と標準偏差

	男性参加者				女性参加者			
	女性刺激人物		男性刺激人物		女性刺激人物		男性刺激人物	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
能力	4.88	0.63	4.73	0.70	4.81	0.78	4.96	0.87
好意度	3.45	0.73	3.43	0.94	3.04	0.82	3.31	0.78
昇進可能性	4.32	0.79	4.28	0.89	4.04	0.91	4.24	0.84
支配性	3.96	0.63	3.92	0.78	4.18	0.75	3.93	0.72
従順と美	2.59	0.61	2.59	0.68	2.26	0.66	2.25	0.79

Table 2 重回帰分析の結果

	男性参加者		女性参加者	
	女性刺激人物	男性刺激人物	女性刺激人物	男性刺激人物
能力	.698 ***	.358 *	.510 **	.585 ***
好意度	.178 *	.399 **	.368 *	.422 **
R ²	.616 **	.470 **	.469 **	.737 **

標準化係数, *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

考察

本研究では、刺激人物の性別による各評価の違いは見られず、共同性が低い、すなわち思いやりのなさは女性の昇進にあまり関わりがなく、想定した媒介効果も見られなかった。また、能力及好意度の昇進可能性との関連を検証した結果、男性参加者は女性刺激人物の場合に好意度よりも能力が昇進可能性に強く関連することが示唆された。このことから、男性評価者は男女によって求める評価基準が異なっており、女性に対して強く能力を示すことを期待していることが考えられる。(本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2132 の支援を受けたものです)